研究は人が成すもの

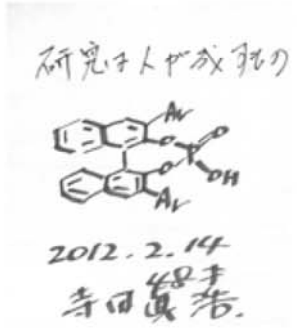
笹野裕介
Yusuke SASANO
東北大学大学院薬学研究科
准教授

部会名：化学系薬学部会

「研究は人が成すもの」これは，寺田眞浩教授(東北大学)のお言葉である．筆者は39歳の若手から中堅の研究者であるが，これまでの研究者人生を振り返ると，人に恵まれて成果を挙げることができた．

筆者は東北大学薬学部で岩渕好治教授(前　日本薬学会会頭)の研究室に配属され，1年間のRyan Shenvi研究室(米国・スクリプス研究所)での留学期間を除き，一貫して岩渕研究室で酸化触媒と酸化反応の開発研究に取り組んできた．1つの研究室で研究を続けると視野が狭くなりがちであるが，様々な研究者との出会いを通じて新しい解析手法や研究領域を学び，成果につなげることができた．例えば，奨励賞受賞の対象となったアルコキシアミン型酸化触媒とニトロキシルラジカル／銅協奏触媒は，それぞれ權垠相准教授(東北大学)，Jaiwook Park教授(韓国・浦項工科大学校)との議論を機に見いだしたものである．

留学から帰国して自分で手を動かす機会が減ってからは，学生の発見に助けられている．例えば，アルケンから1,3-ジエンへの酸化や第三級アミンの酸化的脱アルキル化は，それぞれ長澤翔太博士(現　東北大学助教)，佐々木稜太氏(現　クラレ)が発見したものであり，報告を受けたときの驚きと感動は忘れられない．



間瀬暢之教授室(静岡大学)に掲げられた寺田先生のサイン

「東北大学の学生が優秀だからでしょ」と言われたらそれまでであるが，学生の発見は日頃の教育の賜物だと自負している．筆者の所属する研究室では毎朝8時から9時までの勉強会(主に教科書の輪読)や，毎週の反応機構の演習を通じて，学生の有機化学力の向上に努めている．今後も学生の教育を大事にしながら，成長する学生とともに研究を楽しんでいきたい．

キーワード　有機化学，共同研究，学生

Copyright © 2025 The Pharmaceutical Society of Japan